

## わが国における養護教諭のコーディネーションに関する研究動向

岡本啓子<sup>\*1</sup> 津島ひろ江<sup>\*2</sup> 小海節美<sup>\*3</sup>

### はじめに

学校では一人ひとりの児童生徒に対応できる教育が求められ、それぞれの児童生徒の課題に応じた専門職との連携が重要な教育条件となってきた。学校には多数の専門職が導入されているという現状もみられ、学校の中において、専門職がチームを組んで援助活動を進めるというチームケアの必要性が高まると、そこにコーディネートという専門的な活動が必要となる。そのような中、不登校、医療的ケア、慢性疾患さらに発達障害のある児童生徒の支援に対して、養護教諭がコーディネーションを行うことが必要とされている。児童生徒の健康課題について考えると、小児在宅療養の急速な進展で、在宅療養の延長線上には学校生活を送るための学校での支援体制について課題が生じていた。養護教諭に関する研究では、在宅療養の子どものQOL向上には、学校での医療的ケアに多職種が関わることの必要性とその連携の重要性を示したもの<sup>1)</sup>、養護教諭と外部資源や他職種との連携に、養護教諭の学内での説得力や外部との交流(社交性)力が大きく影響することを明らかにし、その能力の重要性を示唆したものの<sup>2)</sup>など、多くの論文により、養護教諭のコーディネーション機能の必要性が述べられてきた。

2007年3月、文部科学省が行った中央教育審議会への諮問<sup>3)</sup>では「子どもを取り巻く生活環境が変化する中で、子どもの心身の健康、安全・安心に関する様々な課題が生じており、その課題の解決のために一部の教職員が個々に対応するだけでなく、養護教諭や栄養教諭などを中核としつつ、全教職員のそれぞれの役割を明確にし、相互の効果的な連携のあり方を探求した上で、学校全体の取組体制を整備することが必要であり、地域や家庭との連携による総合的な取組が求められる」という内容であった。それを受け、2008年1月、中央教育審議会答申<sup>4)</sup>は

「子どもの現代的な健康課題の対応に当たり、学級担任、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、スクールカウンセラーなど学校内における連携、また医療関係者や福祉関係者など地域の関係機関との連携を推進することが必要となっている中、養護教諭はコーディネーターの役割を担う必要がある」と養護教諭のコーディネーション機能の必要性を示している。

そこで、今回、養護教諭のコーディネーション機能をより正確に把握するため、わが国の近年11年間におけるコーディネーションの研究動向を把握し、養護教諭が関わるコーディネーションの研究動向とその内容を抽出・整理することを本論文の目的とした。さらに今後の研究において、養護教諭のコーディネーション機能の構造を明確化し、質の改善を行いたいと考えている。

また、コーディネーションの言葉の定義は「異なる分野・業種の間をとりもって、それぞれの関係者だけではやりにくい調整の仕事を取捨選択してバランスよく行うこと」とする<sup>5-8)</sup>。

### 方 法

1. 「コーディネーション」をキーワードとして報告されている文献を検索する。期間は1997年から2007年までとし、医学中央雑誌、MAGAZIN-PLUS、CiNiiを検索する。さらに「養護教諭」のキーワードを加えて検索を行う。文献は、原著と研究・報告の論文を研究論文として検索を行う。
2. 「養護教諭」「コーディネーション」双方のキーワードから抽出された文献の内容を整理し、養護教諭のコーディネーションに関する研究動向を把握する。

\*1 畿央大学 教育学部 現代教育学科 \*2 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 \*3 関西福祉大学 看護学部 看護学科 (連絡先) 岡本啓子 〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2 畿央大学

E-Mail: k.okamoto@kio.ac.jp

3 1997年から2007年までの期間，論文内容に養護教諭のコーディネーションに関することが記述されている学会誌および研究紀要等から，養護教諭のコーディネーションに関する内容（養護教諭・コーディネーション・コーディネート・コーディネーターの語句を含む内容）を整理し，研究動向を把握する。

## 結 果

### 1. コーディネーションに関する研究件数の推移

「コーディネーション」のキーワードを含む文献数は，1997年から2007年の11年間で，医学中央雑誌118件，MAGAZINPLUS204件，CiNii277件を検索し，合計599件であった。重複しているものを整理し，最終的に188件を抽出した（表1）。分野別にみると医療分野66件（35%），看護分野49件（26%），福祉分野28件（15%），教育分野34件（18%），心理分野11件（6%）であった。掲載年別の件数は，1997年は6件，1998年は7件，1999年は6件であったが，2000年には11件であった。それ以降は増加し，2001年は24件，2002年は25件，2003年では32件まで増えたが，2004年には24件，2005年は19件，2006年は21件，2007年では13件と減少していた。

また，分野別の推移をみると，看護分野では1999年を除いて毎年4～5件の文献が検索されたが，医療分野においては2000年の5件から，2001年から2003年の12～13件に大幅な増加がみられた。福祉，教育，心理分野では，1999年から検索されたが，福祉分野では年々減少し，反対に教育分野では増加傾

向であった。

### 2. 養護教諭のコーディネーションに関する研究

「養護教諭」「コーディネーション」の双方のキーワードを含む文献は，118件のうち，2002年から2007年にかけて7件<sup>9-15)</sup> 検索され，表1の【 】で示した。さらに，掲載年順に文献番号を付け，タイトル，著者名，掲載誌名，論文の種類（頁数），研究方法，研究対象，研究内容を表2に示した。7件の内訳は，文献番号1-2を除くすべてが，日常の援助活動を養護教諭自身が分析したものであった。文献番号1-1，2，4は養護教諭としての役割を研究し，文献番号1-3，6，7は具体的な養護教諭の実践でのコーディネーションプロセスやその機能の明確化の研究であった。文献番号1-5はシステムづくりに向けて，養護教諭のコーディネーション機能を阻害している要因について研究したものであった。

### 3. 養護教諭のコーディネーションに関する内容を含む研究

1997年から2007年の期間，日本養護教諭教育学会誌，学校保健研究，小児保健研究，小児看護研究，小児科学研究，小児看護，小児科診療，子どもと健康および学校保健学会抄録および研究紀要において，養護教諭のコーディネーションに関する内容を含む文献は，17件検索された。これらも掲載年順に文献番号を付け，タイトル，著者名，掲載誌名，論文の種類（頁数），研究方法，研究対象，研究内容を表3に示した。

表1 コーディネーションに関する研究件数の推移

年代	論文数	(N=188)					養護教諭のコーディネーションに関わる内容の文献
		医療分野	看護分野	福祉分野	教育分野	心理分野	
1997	6		6				
1998	7	2	5				1
1999	6	3	1	2			
2000	11	5	4		1	1	
2001	24	12	5	6	1		1
2002	25	12	5	3	5【1】		
2003	32	13	6	4	4	5【1】	2
2004	24	5	7	4	8		4
2005	19	6	5	4	2【1】	2【2】	3
2006	21	6	5	2	8【1】		3
2007	13	2		3	5【1】	3	3
計	188	66(35%)	49(26%)	28(15%)	34(18%)	11(6%)	17

【 】は養護教諭およびコーディネーション両方のキーワードが入る文献数

表2 養護教諭のコーディネーションに関する研究

番号	タイトル	著者 (著者特性)	誌名	年代	論文種類 (頁)	研究方法	研究対象	研究内容
1-1	個に応じた教育をめざす連携における養護教諭の役割	堀恵美子 今田里佳 植村恵津子 (養護教諭)	信州大学 教育学部 教育実践 研究	2002	研究報告 (10頁)	事例研究	養護教諭	養護教諭の役割は、適切にアセスメントを行い、援助方針を立て、援助資源や教師間のコミュニケーションを行うことが重要である。さらに学校の援助体制を整えるために、コンサルテーションを行う力を持ち、学校内の個に応じた教育を行う機能を整備・充実させる役割を果たすことが重要で、これらをコーディネーションとしている。
1-2	スクールカウンセラーと養護教諭との連携のあり方についてー養護教諭を対象とする意見調査に基づいて	原田唯司 (研究者)	学校カウンセラ ンセリ ン グ研究	2003	研究報告 (9頁)	調査研究	養護教諭	養護教諭は、援助チームを編制するとともにコーディネーション委員会という学校組織における重要な構成メンバーとしての役割があり、体制の整備・充実に貢献するべきである。
1-3	養護学校における児童生徒の医療的ケアに関わる養護教諭のコーディネーション機能の実際ー宿泊を伴う校外学習の事例を通して	野坂久美子 沖村幸枝 津島ひろ江 (研究者)	川崎医療 福祉学 会 誌	2005	原著 (11頁)	事例研究	養護教諭	地域看護学領域のケアコーディネーション枠組みを用いることで、養護教諭が関わる宿泊を伴う校外学習の事例において、コーディネーションを行っていく過程でのプロセスを認め、その中心的役割を担っている。
1-4	中学校において養護教諭が行う健康相談に関する実践的検討(2)食欲不振を訴える情緒不安定な男子生徒の事例を通して	酒向説子 坂本裕 (養護教諭)	九州ルー テル学院 大学発達 臨床セン ター年報	2005	原著 (5頁)	事例研究	養護教諭	養護教諭の実践事例の検討から、養護教諭は、担任、スクールカウンセラー、医療機関、適応指導教室のつなぎの役割的存在であり、それぞれの機能をその必要性に合わせて訪問でき、さまざまな援助資源のコーディネーションという役割が重要である。
1-5	教育相談のシステム構築と援助サービスに関する研究ーA 中学校の実践を通して	相楽直子 石隈利紀 (養護教諭)	教育心理 学研究	2005	原著 (12頁)	事例研究	養護教諭	教育相談に関わる養護教諭は、日常の活動を教育相談活動全体に反映させることがシステム構築に貢献する。しかし、実際援助サービスのコーディネーションを担うことは少なく、その権限における自己評価が低いことから、養護教諭がコーディネーターとして専門性を発揮しやすいように、立場や役割、権限を与えることが重要である。
1-6	医療的ケアのチームアプローチと養護教諭のコーディネーション	津島ひろ江 (研究者)	学校保健 研究	2006	総説 (9頁)	事例報告	養護教諭	学校保健分野において、医療的ケアでのチームアプローチ事例を通して、チームアプローチの重要性とコーディネーションの必要性を明らかにし、コーディネーションプロセス(ニーズの発見・アセスメント・ケア計画・実践・評価)を示した。今後、能力育成のプログラム開発や養成が重要である。
1-7	養護教諭のコーディネーション機能ー養護学校の医療的ケアを中心に	津島ひろ江 (研究者)	保健の科 学	2007	総説 (7頁)	事例報告	養護教諭	特別支援学校の養護教諭の事例について、コーディネーション展開プロセス(NAPDS)を用いてその機能・能力を抽出し、アメリカ癌協会の用いたコーディネーション機能と比較した結果、「権利擁護」と「財政管理」での関わりが弱かった。

(N=7件)

表3 養護教諭のコーディネーションに関する内容を含む研究

(N=17件)

番号	タイトル	著者 (著者特性)	誌名	年代	論文種類 (頁)	研究方法	研究対象	研究内容
2-1	養護学校における医療的ケアの実態と対策	杉本健郎他 (医師)	小児科診療	1998	総説 (5頁)		医師 養護教諭	養護学校における専門医の必要性を示し、公的な保障を訴えていた。さらに医療法および医療行為の関連から、校内での保健行為の日常的職務は養護教諭にあり、定期的な医師の指導と養護教諭と看護師免許の必要性を示している。
2-2	養護学校における障害児のヘルスケア	草薙美穂 (研究者)	北海道医療大学看護福祉学部紀要	2001	総説 (4頁)		養護教諭	養護教諭は学校内で健康問題を扱う唯一の専門職であることから、その機能を発揮するために今後は、障害児を取り巻く家族はじめ担任、地域専門職(医師、看護師、機能訓練士、言語聴覚士など)、またその他の関係機関との連携をはかり、問題解決のコーディネーターとしての役割がより一層求められている。
2-3	緊急時医療対応看護師配置事業の導入を受けて	山崎千賀子 (養護教諭)	日本養護教諭教育学会学術集会抄録集	2003	発表 (2頁)	事例報告	養護教諭	養護学校における看護師導入をきっかけに、養護教諭の他職種間のコーディネーターとしての役割が重要であることを示し、さらに看護師との協働により、学校保健全般の推進と特定児童生徒の健康管理との整合性を指摘している。
2-4	様々な職種との連携	三輪邦江 (養護教諭)	日本養護教諭教育学会学術集会抄録集	2003	発表 (2頁)	事例報告	養護教諭	盲学校における個々に応じた特別な支援に対応する養護教諭のコーディネーターとしての役割の必要性を示し、児童生徒の課題に応じて様々な職種と連携していくことが、非常に重要な教育条件であるとしている。
2-5	在宅療養児と学校における医療的ケアについて	岡本啓子 (研究者)	奈良県立医科大学看護短期大学部紀要	2004	調査報告 (8頁)	文献研究	養護教諭 看護師	地域で生活する在宅療養児の支援には、保健・医療・福祉・教育の連携がなくてはならないとし、特に医療と教育に関わる看護職(養護教諭および看護師)の視点から、その重要性を指摘している。
2-6	学校における医療的ケアへの養護教諭の関わりと保護者の期待	大川尚子他 (研究者)	日本養護教諭教育学会誌	2004	調査報告 (12頁)	調査研究	養護教諭 保護者	養護教諭および医療的ケアを必要とする児童生徒の保護者への調査から、約半数以上の養護教諭が医療的ケアへの積極的取り組みの重要性を認識し、また保護者は養護教諭に対して、疾患理解や精神的支援を望み、養護教諭は子どもの疾患や状態を常に把握し、中心的かつコーディネーター的役割を果たすことを望んでいる。
2-7	養護教諭に求められるコーディネーターの力量	中安紀美子 (研究者)	健康な子ども	2004	解説 (2頁)		養護教諭	養護教諭のコーディネーターとしての役割は必要であるが、こどもの成長発達権を尊重することが重要であり、養護教諭の専門性の焦点をそこに当てるべきである。
2-8	異職種との協働を課題として-コーディネーター、マネジメントとしての養護教諭	津川絢子 (研究者)	子どもと健康	2004	特集 (11頁)	事例報告	養護教諭	時代のニーズに応えられる養護教諭でなければならない。医療的ケアという健康実態を把握したとき、その最新知識、技術習得、情報など獲得しておかないとコーディネーターは務まらない。看護師との協働や役割分担を強調している。
2-9	肢体不自由養護学校教職員が行う健康管理	秋原志穂他 (研究者)	小児看護研究	2005	原著 (9頁)	調査研究	教諭	養護学校の教職員への調査から、児童生徒の健康管理上困難に感じることとして、周囲の関係者との連携や医療的ケア・体調の見極めが挙げられていた。校内における情報源は養護教諭であると示している。
2-10	養護学校における医療的ケア実施者に対する保護者の望み	大島操他 (研究者)	看護科学研究	2005	原著 (6頁)	調査研究	保護者	医療的ケアの実施者を看護師と希望する保護者が多く、養護教諭は医療的ケアに十分対応できる環境にあるとはいえないとし、養護教諭には医師や看護師との連携を望んでいる。
2-11	養護学校の就学における養護教諭の役割	角谷せつ子他 (養護教諭)	日本学校保健学会抄録集	2005	発表 (2頁)	事例報告	養護教諭	養護学校就学指導の際、養護教諭は保護者からの相談をかき取り、学校医・主治医・管理職・地域支援部教育担当者・担任・看護師・スクールバス添乗員・栄養士など必要と判断した者と連携を行い、調整的役割を果たしている。
2-12	養護学校における医療的ケアの実態と養護教諭の役割	岡田眞江他 (養護教諭)	日本学校保健学会抄録集	2006	発表 (2頁)	事例報告	養護教諭	養護学校の医療的ケア実施者における養護教諭の役割を分析し、情報収集・アセスメントを実施し、連携に必要な対象を判断し、医療と教育双方の情報を共有し、組織的な取り組みにつなげた養護教諭の役割を示している。
2-13	養護学校における医療的ケア必要児の健康支援を巡る他職種の役割と協働	丸山有希他 (養護教諭)	小児看護研究	2006	調査報告 (10頁)	調査研究	養護教諭 看護師 教諭	看護師・教諭・養護教諭への調査では、学校現場では[役割・責任の共通認識]の必要性を認めるが、[役割の相互補完][役割の分担重視]と相反する考えを認め、連携を複雑化している。教育と医療の狭間に調整する役割が必要である。
2-14	医療ニーズの高い児童・生徒の対応に関する養護教諭の現状と課題	竹鼻ゆかり他 (研究者)	日本養護教諭教育学会誌	2006	調査報告 (11頁)	調査研究	養護教諭	医療ニーズの高い児童生徒への関わりにおいて、[教育的な関わり][指導者的役割][コーディネーターとしての役割]など、養護教諭の教育的な視点を示している。
2-15	脊髄性筋萎縮症1型の子どもの学校の学校生活	松井洋学他 (研究者)	小児保健研究	2007	原著 (8頁)	調査研究	保護者	在宅療養児の保護者調査では、看護師免許の有無にかかわらず、コーディネーター的役割を担う養護教諭が関わる学校では、学校生活がスムーズであった。
2-16	医療的ケアにおける養護教諭のコーディネーションに求められる能力	沖西紀代子他 (養護教諭)	日本学校保健学会抄録集	2007	発表 (2頁)	調査報告	養護教諭	医療的ケアのコーディネーションに関わっている養護教諭の調査から、必要とするコーディネーション能力を示し、さらに能力養成を図る必要性とその研修プログラムの課題が出た。
2-17	小児在宅ケアにおける医療と教育の連携のあり方	水田弘見 (学校管理職)	小児看護	2007	特集 (7頁)		教諭	養護学校においては、養護教諭に教育と看護のコーディネーターとしての役割を期待しているが、実際にコーディネーターの機能を果たせるにはかなりの時間を必要とすることが明らかである。看護師のバックアップができる養護教諭の研修の充実が必要だとしている。

4. 養護教諭のコーディネーションに関する研究を示した表2, 養護教諭のコーディネーションに関する内容を含む研究を示した表3から以下の内容を明らかにした.

- 1) 1990年代の在宅医療研究を背景に, 杉本らによって疾病や障害をもつ児童生徒が学校生活を送る上での困難な実態について報告された. 医師法および医療行為の関連から「養護学校での医療的ケアにおける養護教諭には看護師免許が必要である」と提言された<sup>16)</sup>.
- 2) 2000年に入ってから, 看護師や現場の養護教諭, 学校カウンセラーの立場から, 医療的ケアや慢性疾患, 不登校に関するチームを編成して援助活動を進める際, 養護教諭のコーディネーションが必要であるとしていた. 2002年には, 養護教諭が行った対象者の個別のニーズに対応したケアコーディネーション実践例が報告されていた<sup>9,11,12)</sup>. これらは従来からの養護教諭の日常保健援助活動の研究を報告することで前進し, 学校への他職種の導入により, 組織体制の確立と養護教諭がそれに関わる必要性を示していた. 家族支援の側面や児童生徒の継続支援過程でのチームアプローチの重要性などの検討も行われていたが, 養護教諭の役割やコーディネーションに関してはその必要性の指摘にとどまった<sup>17,23,24,29)</sup>.
- 3) 医療的ケアに関する研究においては養護教諭のコーディネーションを内容とする研究が多く見られた. 学校における医療的ケアの実態, 看護師の配置状態などに続き, 特別支援教育・コーディネーターに関連して, 養護教諭のコーディネーション能力が必要であると強調する意見や研究結果の報告がみられたが, その機能については明らかにされていなかった<sup>20,21,22,27,28,30)</sup>.
- 4) 養護教諭の援助活動の聞き取りから, コーディネーションのプロセスを認め, 5段階(ニーズの発見・アセスメント・ケア計画・実践・評価)の展開プロセスを明らかにしていた. 養護教諭のコーディネーション機能は, システムの構築に欠かせない存在であることや, 養護教諭の職務が他職種の視点で検討されることで, 養護教諭が関わる重要性がより明らかになった<sup>10,13)</sup>. また, 養護教諭のコーディネーション機能の検討やその能力の養成についての研究も始められ<sup>14,15)</sup>, 今後の研究の方向性に大きく影響すると思われる. 従来から健康課題に関しては養護教諭が関わり, その

コーディネーション機能は果たしている. 養護教諭が中心となり, 多職種が関わる連携から統合ケアシステムに至る支援の成功例の報告<sup>18,19,25,26)</sup>がされていた.

- 5) 養護教諭のコーディネーション機能の養成およびその質の向上において, 研修プログラムの必要性が高まっている<sup>29,31)</sup>.

## 考 察

### 1. 文献の動向について

1980年より福祉分野では, 地域福祉援助活動において「ケアマネジメント」という用語が使用されていた. 1990年に入り, 地域保健分野においては, 地域保健援助活動として保健師が従来から培ってきた「地域ケアマネジメント」の概念づくりが始まった. 1994年(高崎)や1997年(新津)の研究論文が出され, ケアマネジメントと同義語としてケアコーディネーションが使われるようになった背景がある. その背景の中, 検索を行った1997年には特に看護分野の研究が多く見られたのだと思われる. また2000年まで, 教育・心理分野におけるコーディネーションのキーワードを含む研究はみられず, 教育現場においては教師個々の力量で児童生徒の援助活動が行われてきた現状が伺われる. それ以降, 教育現場において特別支援教育の導入に向け, 他職種が関わる協働の必要性が高まり, コーディネーションの研究が進められるとともに, 件数の増加と占める割合の変化も見られてきた. また, 心理分野と分類したものは, ほとんどが学校心理士によるもので, 研究フィールドは学校, 研究対象は養護教諭であるため教育分野と考えることもできる.

不登校, 医療的ケア, 発達障害などの児童生徒一人ひとりに対応できる教育を求め実践していくには, 教師個々の力だけでは無理が生じている. いま, 学内での職員間の協力はもとより, 外部機関・専門職との連携を成立させ, 協働する方向へと動いている. 2000年以降, 教育の分野においてコーディネーションを含む研究論文が増えてきていることは, これらを明確に表していると考えられる.

### 2. 養護教諭のコーディネーション機能について

養護教諭とコーディネーションのキーワードが入る研究論文は, 全体の3.7%(7件)であった. 研究論文の数が少ないということは, 教育・学校保健分野における養護教諭が行うコーディネーションについて, まだ明らかにされておらず, 養護教諭が行うコーディネーション機能について研究は進められて

いないと考える。

また、養護教諭のコーディネーションに関する文献は、先に検索したように医療的ケアに関する研究において、養護教諭のコーディネーションを内容とする研究が多く見られ、これはその機能を最も発揮されていると考えているのだと思われる。養護教諭のコーディネーションを考えるにあたり、個別のケアコーディネーションが必要な対象者は、複雑多様なニーズがあり、長期にわたる解決策が必要である。それは単独や一専門職によってのみ解決できる課題ではなく、多くの専門家や複数の関係者による支えが必要なが多くいとされている。養護教諭の場合、健康課題に関わるすべての事例に対応するのであるから、特別支援および特別支援教育コーディネーターとも深く関連が生じるのは、確実である。水田<sup>31)</sup>は、養護教諭のコーディネーションの必要性は認められているが、実際に養護教諭がコーディネートを担うことは少なく、現在の学校において養護教諭がコーディネートをを行うことに期待はするが、まだまだ実践までは行かず時間を要するとしている反面、養護教諭への充実した研修が必要であるとも強調していた。このような教育現場の管理職の意見は、養護教諭のコーディネーション機能の確立やコーディネーション能力の養成のプログラム開発の裏付けへつながっていくと考えられる。

さらに養護教諭のコーディネーション機能については、養護教諭のみならず、他の専門職からも必要不可欠とされていることに注目するべきであるし、他

職種の見点をも視野に入れた研究内容を取り入れることで、より質の高い養護教諭のコーディネーション機能を確認できると考える。

## 結 論

- 1 1997年～2007年のコーディネーションに関する文献の動向は、年代が進むにつれてその数が増え、2003年最も多かった。医療、看護、福祉分野では減少し、教育分野は増加してきていた。学校での援助・支援活動における他機関、他職種との連携が必要となり、その調整のためコーディネーションに関する研究が増えてきた。
- 2 1997年、医師の立場から養護学校での医療的ケアにおける養護教諭には、看護師免許が必要であると提言がされ、2000年に入り看護師や現場の養護教諭、学校カウンセラーの立場から、医療的ケアや慢性疾患、不登校におけるチームを編成して援助活動を進める際の養護教諭のコーディネーション機能が必要であるとされてきた。
- 3 現段階では、養護教諭の援助活動の聞き取りから、コーディネーションのプロセスを認め、5段階の展開プロセスが明らかにされていた。さらに養護教諭のコーディネーション能力養成の必要性と、今後の能力育成プログラム開発の必要性が示されるところまで研究が進んでいる。

## 文 献

- 1) 岡本啓子：在宅療養児と学校における医療的ケアについて、奈良県立医科大学看護短期大学部紀要，8，89-96，2004。
- 2) 岡本啓子，松嶋紀子：養護教諭と地域保健機関の連携に影響を及ぼす要因の検討，学校保健研究，48(3)，209-218，2006。
- 3) 文部科学省諮問：子どもの心身の健康を守り，安全・安心を確保するために学校全体としての取り組みを進めるための方策について，2007。
- 4) 中央教育審議会答申：子どもの心身の健康を守り，安全・安心を確保するために学校全体としての取り組みを進めるための方策について，2008。
- 5) 松村明：大辞泉，小学館，1995。
- 6) 松村明他：辞林21，三省堂，1993。
- 7) 柴田武他：類語大辞典，講談社，2002。
- 8) 中西睦子他：地域看護学(TACSシリーズ10)，建帛社，2003。
- 9) 堀恵美子，今田里香，上村恵津子：個に応じた教育をめざす連携における養護教諭の役割，教育実践研究，3，67-76，2003。
- 10) 原田唯司：スクールカウンセラーと養護教諭との連携のあり方について—養護教諭を対象とする意見調査に基づいて，学校カウンセリング研究，6，19-27，2003。
- 11) 野坂久美子，沖村幸枝，津島ひろ江：養護学校における児童生徒の医療的ケアに関わる養護教諭のコーディネーション機能の実際—宿泊を伴う校外学習の事例を通して，川崎医療福祉学会誌，15(1)，123-133，2005。

- 12) 酒向説子, 坂本裕: 中学校において養護教諭が行う健康相談活動に関する実践的検討(食欲不振を訴える情緒不安定な男子生徒の事例を通して), 九州ルーテル学院大学発達心理臨床センター年報, 4, 59-63, 2005.
- 13) 相楽直子, 石隈利紀: 教育相談のシステム構築と援助サービスに関する研究 - A 中学校の実践を通して, 53(4), 579-590, 2005.
- 14) 津島ひろ江: 医療的ケアのチームアプローチと養護教諭のコーディネーション, 学校保健研究, 48(5), 413-421, 2006.
- 15) 津島ひろ江: 養護教諭の今日的課題 養護教諭のコーディネーション機能—養護学校の医療的ケアを中心に, 保健の科学, 49(2), 131-137, 2007.
- 16) 杉本健郎, 禹満: 養護学校における医療的ケアの実態と対策, 小児科診療, 5(37), 933-937, 1998.
- 17) 草薙美穂: 養護学校における障害児のヘルスケア, 北海道医療大学看護福祉学部紀要, 8, 31-34, 2001.
- 18) 山崎千賀子: 緊急時医療対応看護師配置事業の導入を受けて, 日本養護教諭教育学会学術集会抄録集, 11, 48-49, 2003.
- 19) 三輪邦江: 様々な職種との連携, 日本養護教諭教育学会学術集会抄録集, 11, 50-51, 2003.
- 20) 大川尚子, 野谷昌子, 佐藤秀子, 山本暎子, 松嶋紀子: 学校における医療的ケアへの養護教諭の関わりと保護者の期待, 日本養護教諭教育学会誌, 7(1), 73-84, 2004.
- 21) 中安紀美子: 養護教諭に求められるコーディネーターの力量, 健康な子ども, 2-3, 2004.
- 22) 津川絢子: 異職種との協働を課題として - コーディネーター, マネジメントとしての養護教諭, 子どもと健康, 76, 21-31, 2004.
- 23) 秋原志穂, 篠木絵理, 山本美佐子, 草薙美穂, 岡田洋子: 肢体不自由養護学校教職員の行う健康管理, 小児看護研究, 64(6), 811-819, 2005.
- 24) 大島操, 阿部恭子, 新居富士美, 影山隆之: 養護学校における医療的ケアの実施者に対する保護者の望み, 看護科学研究, 7, 1-6, 2005.
- 25) 角谷せつ子, 中村雅子, 津島ひろ江: 養護学校の就学における養護教諭の役割, 日本学校保健学会抄録集, 52, 258-259, 2005.
- 26) 岡田眞江, 中村雅子, 角谷せつ子, 津島ひろ江: 養護学校における医療的ケアの実態と養護教諭の役割, 日本学校保健学会抄録集, 53, 314-315, 2006.
- 27) 丸山有希, 村田恵子: 養護学校における医療的ケア必要児の健康支援を巡る他職種の役割と協働, 小児看護研究, 65(2), 255-264, 2006.
- 28) 竹鼻ゆかり, 岡田加奈子, 朝倉隆司: 医療ニーズの高い児童・生徒の対応に関する養護教諭の現状と課題, 日本養護教諭教育学会誌, 9(1), 62-72, 2006.
- 29) 松井学洋, 高田哲: 脊髄性筋萎縮症 型の子どもの学校生活, 小児保健研究, 69(3), 448-455, 2007.
- 30) 沖西紀代子, 津島ひろ江, 大山裕美, 角谷せつ子, 高橋雅樹, 中村雅子, 中村祥子, 藤川安芸子, 岡田眞江: 医療的ケアにおける養護教諭のコーディネーションに求められる能力, 日本学校保健学会抄録集, 54, 222-223, 2007.
- 31) 水田弘見: 小児在宅ケアにおける医療と教育の連携のあり方, 小児看護, 30(5), 584-590, 2007.

(平成20年5月20日受理)

**Trends of Research Coordination for Yogo-Teachers in Japan**

Keiko OKAMOTO, Hiroe TSUSHIMA and Setsuko KOUMI

(Accepted May 20, 2008)

Key words : Yogo-teachers, coordination, school, support team

Correspondence to : Keiko OKAMOTO      Department of Modern Education, Faculty of Education  
Kio University  
Kohryo-cho, 635-0832, Japan  
E-Mail: [k.okamoto@kio.ac.jp](mailto:k.okamoto@kio.ac.jp)  
(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.18, No.1, 2008 255-262)